

最終報告

私たちの力

学校でいじめを未然に防止する!

これは、組織の共通認識による体制づくりを通して、いじめの未然防止を目指す一つの提案です。

どんな情報を共有して、
判断や対応に生かせば
いいんだろう?
何か観点があればなあ...

自分だけの考えで
「いじめ」の判断や
対応は決められない!
どうしたらいいだろう?

対応方針がまとまらない!
どうやって目標(ゴール)
を決めたらいいの?

見立てる力

対応力

いじめ未然防止 =

いじめ認識アンケート 事例ワーク チーム
(実態調査+校内研修)×組織

いじめの組織的な未然防止に関する研究

～いじめを「見立てる力」と「対応力」の向上に役立つ事例ワーク～

URL : https://apec.aichi-c.ed.jp/kenkyu/chousa/kiyo/111syuu/111-3_mizenboushi/mizenboushi_index.html

QR
コード

令和4年4月 愛知県総合教育センター

いじめ「深刻化のリスク」の3つのキーワード



① 行為の反復性

一定期間、繰り返されている行為または一方向的な関係性(行為を変えて繰り返されていることもある)

② アンバランスパワー (力関係の不均衡さ)

一方的に弱い立場にしている
・ 集団の規模や人数の差
・ 体格や運動・知的能力の差
・ 集団内の地位や人気度の差
・ 賞罰のコントロール などの要因

③ シンキングエラー(人権に影響を及ぼす間違った考えや認識)

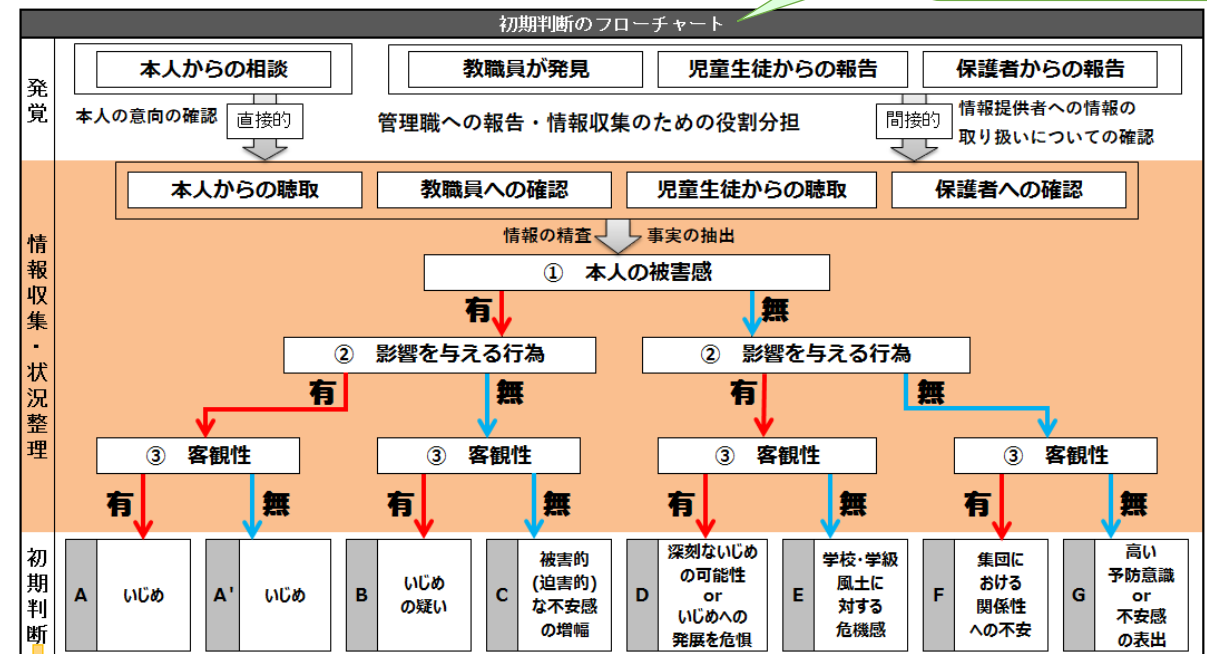
被害の立場にある児童生徒の人権侵害が正当化されてしまう要因
ア 被害の立場 イ 加害の立場
ウ 傍観者 エ 教職員

オリジナルツール

いじめ事案の初期判断のためのフローチャート

判断の3観点	ポイント
① 本人の被害感	ある「行為」によって心身に苦痛を感じているという本人からの訴え
② 心理的または物理的影響を与える行為	インターネットを通じて行われるものを含め、心理的または物理的な影響を与える行為 ※「けんか」や「ふざけ合い」、「好意で行った行為」などの意図せぬ行為も含まれる
③ 客観性 (客観的事実)	根拠が確かであり、公平性が保たれ、誰もがそうだと納得できる情報 ・ 複数の児童生徒から受けた同じ内容の情報 ・ 推測、想像の入っていない大人(教職員や保護者)からの情報 ・ 当事者と日頃の交友が少なく、報告による影響が少ない児童生徒からの情報

3つの観点から
フローに従って
初期判断
を決定できる!



例) 初期判断を「D」としたとき

初期判断	支援の方向性の例
D 深刻ないじめの可能性 または いじめへの 発展を危惧	○被害の立場にあっても、当事者にシンキングエラー※があるために被害を訴えられないことにも留意する。 ○周囲の児童生徒からの訴えは、報告者自身の被害感と捉え、生活環境の居心地の悪さと考えるとよい。 ○S Cと相談しながら、教員による被害の立場と報告者への個別の心理的支援を検討する。 ○報告のあった行為について、グループや集団に対して注意を喚起する。 ○心理教育 (S G E [構成的グループエンカウンター]・S S T [リソーストレーニング]・アサーショントレーニング)を通して、積極的な関係づくりを図る。

8つの判断ごとの
支援の方向性を掲載
↓
共有して支援検討に

いじめを「見立てる力」と「対応力」の向上に役立つ事例ワーク

いじめを**見立てる力**
を高める校内研修

いじめへの**対応力**
を高める校内研修

情報整理

- 各自の「**情報カード**」を読み、共有する内容を整理!
- 「初期判断のためのフローチャート」で**個人の判断**をチェック!

事例

個別の内容

情報カード

共通情報

個別情報

関係図

情報収集・状況整理

- いじめの初期判断に必要な情報の収集と整理!



深刻化のリスク

- いじめ「**深刻化のリスク**」の3つのキーワードをチェック!
- ①行為の反復性
- ②アンバランスパワー
- ③シンキングエラー

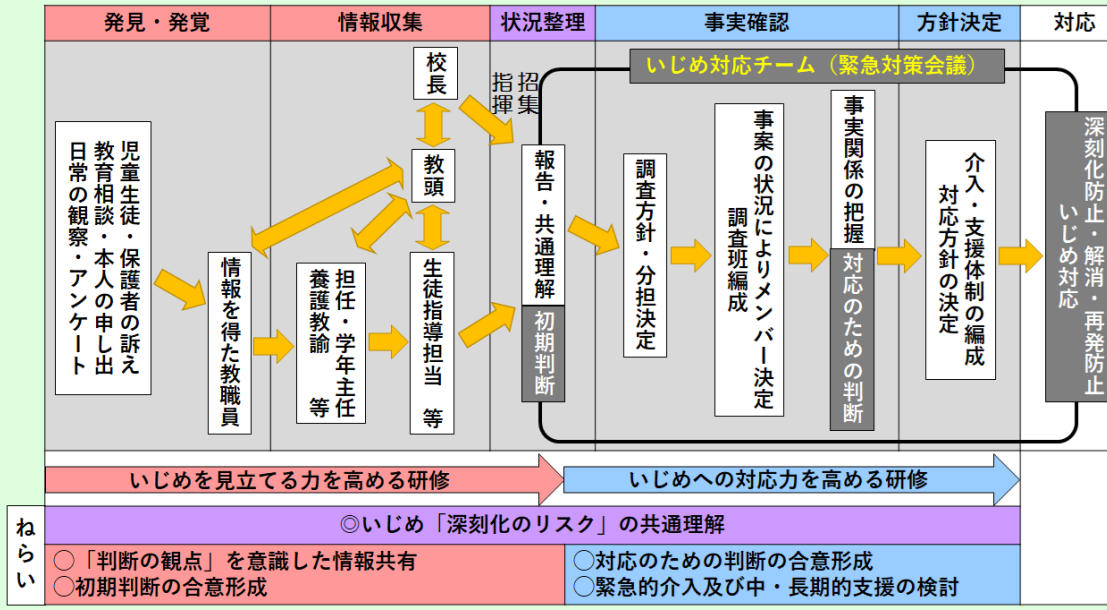
初期判断

- 「初期判断のためのフローチャート」で**グループの判断**の合意形成!
- ①本人の被害感
- ②影響を与える行為
- ③客観性

振り返り

Step1 研修を選ぶ

いじめ事案の組織的対応の流れと研修の位置付け



事例

共通の内容

現況のまとめ

関係図

情報収集・
状況整理後の
共通情報

事実確認

- 「**現況のまとめ**」を読み、事実を確認!

深刻化のリスク

- いじめ「**深刻化のリスク**」の3つのキーワードをチェック!
- ①行為の反復性
- ②アンバランスパワー
- ③シンキングエラー

対応のための判断

- 「初期判断のためのフローチャート」で、対応に向けた**グループの判断**の合意形成!
- ①本人の被害感
- ②影響を与える行為
- ③客観性

対応方針

- 付箋紙**を用いて、対応策(支援・指導)の**アイデア**を出し合う!

振り返り



Step2 事例を選ぶ

架空事例の概要(全6事例)

校種	区分	主題	事例にみられる様態		
小学校	事例1 小①	他の児童からのちょっかいによる影響が気になる小5男子児童の事例	社会的排除	関係操作	物理(身体)的影響
	事例2 小②	お金にかかわる行動が気になる小6男子児童の事例	無視	関係操作	金品にかかわる行為
中学校	事例3 中①	部活動での噂や伝聞による影響が気になる中1女子生徒の事例	噂の流布嘘	陰口同調	ネット上の行為
	事例4 中②	グループにおける関係性が気になる中1女子生徒の事例	陰口同調	関係操作	言語(心理)的影響 物理(身体)的影響
高校	事例5 高①	SNS上に投稿された高1女子生徒の画像に関する事例	噂の流布嘘	社会的排除	ネット上の行為
	事例6 高②	SNS上の噂による周囲からの影響が気になる高2男子生徒の事例	噂の流布嘘	社会的排除	無視 ネット上の行為

Step3 いざ、実践

Q1: 研修の準備は大変ではないですか?

A: 研修に必要なシートはダウンロードできます。研修実施者ためのマニュアルや説明資料、司会者・記録者用の手持ち資料もあるので安心です。

Q2: すでにいじめが起これにくい学校では、「いじめ」の研修への意欲喚起が難しいような気がします...

A: 「いじめ」事案を検討するワークですが、情報共有や合意形成、意見交流を通してメンバーの相互理解が促され、関係づくりにも役立ちます。

Q3: 自分たちだけで研修を実施することに不安があるのですが、何かサポートはありますか?

A: 当センター研究部の「教育研究サポートデスク」で「出前講座」の依頼も受けており、講師を派遣して研修を実施することもできます。

【事例ワークを活用した研修】

＜問い合わせ＞

- ① 所属(学校名)・担当(役職等)・氏名
- ② 連絡先(電話及びメール)
- ③ 問い合わせ内容

を記載し、下記にメールしてください。
担当者から連絡いたします。

【相談部 教育相談研究室】

✉ soudan-kenkyu@apcc.aichi-c.ed.jp